

## 重点事業3 看護職の就業・定着の促進

### 事業内容

#### 1. 看護職の人材確保の推進

- 1) ナースセンターの機能強化
  - (1) 中小規模病院対象の就職説明会の開催
  - (2) 求人施設訪問によるマッチングの促進
- 2) 届出制度の広報強化と届出促進
- 3) 看護職の再就業支援の強化
  - (1) 潜在看護職の復職支援のための研修強化
  - (2) プラチナナースのセカンドキャリアへの支援

#### 2. 勤務環境改善の推進

- 1) WLB推進のためのアドバイザー派遣
- 2) ヘルシーワークプレイスの普及啓発

### 実績概要

#### 1. 看護職の人材確保の推進

- 1) ナースセンターの機能強化
  - (1) 中小規模病院対象の就職説明会の開催  
開催月日：令和元年11月14日（木）場所：看護研修センター  
参加者：求職者21人 求人施設17施設 施設見学13人 就業決定4人
  - (2) 求人施設訪問によるマッチングの促進  
施設訪問：13施設実施、NC事業や届け出制度、求人の現状について情報交換
- 2) 届出制度の広報強化と届出促進  
広報：届出セット（届出説明用紙などをパック包装）を作成し、県内92施設へ送付  
届出件数：令和元年度 294件 /年間
- 3) 看護職の再就業支援の強化
  - (1) 潜在看護職の復職支援のための研修強化  
潜在看護師再就職支援セミナー「急変時の対応に必要な基礎知識」2回（9/19 1/16）  
対象：eナース登録者で未就業の看護職 参加者：36人（看護師31人 准看護師5人）
  - (2) プラチナナースのセカンドキャリアへの支援  
プラチナナースセカンドキャリア研修：令和元年12月14日 参加者：56人

#### 2. 勤務環境改善の推進

- 1) WLB推進のためのアドバイザー派遣  
実績：11施設へ実施 アドバイザー派遣回数19回 アドバイザー派遣人数：延べ41人
- 2) ヘルシーワークプレイスの普及啓発  
講演会①「看護職の働き方改革」開催日8/31 参加者：54施設193人  
講演会②「ヘルシーワークプレイスとDiNQLデータの活用」開催日10/3 参加者：76人

## 事業実績

### 1. 看護職の人材確保の推進

#### 1) ナースセンターの機能強化

ナースセンターの機能強化に取り組み、県内看護職求人施設の人材確保に向けて就職説明会の開催や求人施設訪問を行った。就職説明会の開催では、看護職の合同就職説明会を令和元年11月14日(木)看護研修センターにおいて開催した。求職者21人、求人施設17施設の参加があり、13人の看護職が施設見学を希望し実施、マッチングの結果4人が就職に至った。又新聞社主催(看護協会後援)の看護師採用合同説明会(4月6日実施)では、看護学生や既卒の求職者等参加者は154人であった。ナースセンターブースには県外からの学生など22人の訪問があり、県内看護職求人の募集・採用の時期などについて情報提供した。求人施設訪問によるマッチングの促進においては、求人施設13施設を訪問した。看護部長など看護管理者に「ナースセンター事業や届け出制度の活用について」「各施設の届出の状況」「求人現状について」情報交換した。施設側からは、ナースセンター事業の理解が深まった。職業紹介事業をしていることを知らなかった。届け出制度は説明しているが届出の確認まではしていない。看護師の採用は有料職業紹介所も利用している等の説明があった。施設側の求人に関する課題など施設情報の把握や求人施設とナースセンターの顔の見える関係づくりができた。

#### ■ナースバンク事業実績

	有効求人登録数	有効求職登録数	就職者数	求人・求職相談数
令和元年度	3,244人	1,742人	256人	425件
平成30年度	3,391人	1,816人	270人	457件

今年度のナースバンク事業では、有効求人登録数3,244人、有効求職登録数1,742人、就職者数256人で昨年度と比較して多少減少している。求職者のニーズと求人側のニーズのマッチング不足があり、ナースセンターでは、求人依頼に充分に応えられていないという現状がある。マッチングの向上に向けて求人・求職登録者数を増やすことや今回のような施設訪問を行い、求人施設との顔の見える関係や施設の看護体制、研修体制等の情報は求職者の職業紹介に活かされマッチングの向上に繋がり看護職の就業促進には有効だと考える。又、日々の就業相談においては、就業意識、働き方・働く場所の多様化、治療と仕事の両立など、ライフサイクルやライフスタイルなどに合わせたキャリア支援での就業支援が求められ、キャリアコンサルティングの視点での相談体制づくりが重要となり、看護職の就業相談の質向上に向けた相談員の研修の強化が課題である。

#### 2) 届出制度の広報強化と届出の促進

##### ■届出数 (人)

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
件数	64(半年)	186	234	328	294	1,125

##### ■登録手段 (人)

登録手段	パソコン (自己登録・NC代理登録)	スマホ (自己での登録)	代行 (施設での代行登録)	合計
令和元年度	162(55%)	65(22%)	67(23%)	294(100%)
平成30年度	221(67%)	65(20%)	42(13%)	328(100%)

■e ナースセンター（日本看護協会求人求職登録サイト）登録希望者数（人）

e ナースセンター登録	希望する	希望しない	説明希望	合計
令和元年度	98 (33.3%)	192 (65.3%)	4人 (1.4%)	294 (100%)
平成30年度	180 (54.9%)	141 (43%)	7人 (2.1%)	328 (100%)

今年度、届け出者数は294人であった。登録手段では代行届出が昨年度の13%→23%と増えており看護管理者の離職看護職への積極的な取り組みの効果と評価する。一方看護職一人ひとりへの周知不足が課題であり、今年度より個人用退職セット（個別包装パック）を作成、離職時の説明用にと工夫し、92施設へ配布した。併せて、8月24日の施設代表者会議にて各施設の看護管理者に説明し、看護職自からが届出することを促していった。登録手段の実績においてみると、看護職自からの登録手段としてのスマホ登録が65件（前年度65件）でまだ変化はない。次年度も広報を強化し継続して取り組んでいく。又、e ナースセンター登録は求人検索に繋がり就業を促進すると考えられるが、登録を希望しない人が届出者の65.3%（192人）と多く、昨年度と比較して22.3%増加している。背景には社会的な個人情報のセキュリティへの不安があると考えられるが実態は不明である。届出者への確認時の電話などを利用し、希望しない理由の聞き取り調査を行っていく。又、e ナースセンターの求人検索機能などメリットを理解してもらいながら、システムを活用していけるよう支援していきたい。

### 3) 看護職の再就業支援の強化

#### (1) 潜在看護職の復職支援のための研修強化

潜在看護職の復職支援のための研修強化として救急認定看護師を活用した再就職支援セミナーを2回実施した。

##### ① 潜在看護師再就職支援セミナー「急変時の対応に必要な基礎知識」

目的：「急変予測に関する知識を学習し急変対応に必要な知識技術を習得すること」

日時：1回目（令和元年 9月19日（木）10：00～15：00）

2回目（令和2年 1月16日（木）10：00～15：00）

内容：講義「急変時の対応に必要な基礎知識」「急変時の評価と報告 SBAR」

演習「一時救命処置について（BLS）」 講師：救急認定看護師 2人

受講者：36人（看護師31人 准看護師5人）

年代別内訳：20代（4人）30代（6人）40代（14人）50代（8人）60代4人

今回のセミナーは、e ナースセンター登録者で未就業看護職、ハローワークや新聞、ホームページ等で広報し、労働局の許可を受けハローワーク就業活動として就業認定できるよう工夫したため、36人の参加者があった。受講者は認定看護師を通して、最新の知識・技術の学習に触れる機会となり、SBARということばを始めて聞いた、急変患者にあたった経験がなかったので勉強になった等の感想が聞かれた。急変時の SBAR での報告の仕方等を通してフィジカルアセスメントを学びたいなどアンケートからは、早くも次の課題に向かう学習意欲も感じられた。又、シミュレーターを使つての心肺蘇生の演習では蘇生バッグの取り扱いなどを集中して学んでいた。

感染管理認定看護師を活用した研修も通常のトレーニング研修の中で組み入れ実施した。受講者は、標準予防策や手指衛生の大切さについて学ぶ中で、「手洗いが重要」ということが学べたとあった。このような認定看護師を活用した支援セミナーや研修は潜在看護師の復職への就業意欲を高め看護実践能力向上につながると考える。潜在看護師の研修強化として救急・感染管理の認定看護師を活用した研修は次年度も継続して実施していきたい。

##### ② 潜在看護師の看護技術トレーニング研修（潜在看護師再就職支援事業）

開催：定期開催 毎週水曜日 13:30～16:30

実績：看護師 74 人、(保健師 9 人 助産師 2 人 看護師 49 人 准看護師 14 人)

年代：20 代 (8 人) 30 代 (21 人) 40 代 (28 人) 50 代 (13 人) 60 代 (4 人)

就業状況：49 人 (病院 18 人、クリニック 16 人、ディサービス 4 人、児童ディサービス 4 人、その他 7 人)

就業率：66.2% (74 人中 49 人が就業) 未就業 33.8% 25 人 () 未就業の理由は「体調不良」「家庭の事情」「勤務条件が合わない」などであった。

③ 潜在看護師を雇用した施設への支援 (潜在看護師再就職支援事業)

期間：平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月

実績：6 施設 8 人 (看護師 8 人) 支援期間：3 ヶ月 (6 人) 1 ヶ月 (2 人)

就業定着率は 75% であり、支援期間が通常 3 か月の支援だが、今年度は 3 か月の修了者が 6 人、1 ヶ月の支援が 2 人となり就業の継続が出来ないケースが 2 人あった。ブランクの長さなどが影響し、マッチングの難しさや就業支援の在り方などが課題となった。

潜在看護師の復職支援事業全体では、潜在看護師の把握には課題があり、届け制度と関連した事業展開の在り方など、今後見直しを含めて検討していく。

(2) プラチナナースのセカンドキャリアへの支援

【目的】プラチナナースのセカンドキャリア支援を行うことで再就業を支援する

日時：令和元年 12 月 14 日 (火) 13:30～16:30

内容：講義「これからの働き方と社会保険の基礎知識」(社労士)

「セカンドステージを考える」(担当者)

グループワーク「セカンドライフ目標」ワークシートの作成 情報交換後発表

参加者：56 人 40 代 (1 人) 50～54 歳 (4 人) 55～59 歳 (36 人) 60 代以上 (12 人) 不明 (3 人)

今年度参加者は 56 人と昨年倍の参加者があり関心の高さが伺えた。年齢別では 55 歳～59 歳が最も多く、企画側の予測した需要年齢と合致していた。定年退職はゴールではなく、セカンドライフ (ステージ) を迎えるにあたっては準備が必要である。アンケートからの評価では、ほとんどの方が今回の研修を良かったと評価している。定年後の年金の状況や定年までの間にやるべきことが具体的にイメージできた。「これからの働き方を知る知識と情報が得られた」情報交換会ではそれぞれのライフプラン目標達成へのデザインを描き発表しあい夢のある意見が聞けたとの事だった。働く場所の準備や生活資金の準備などが必要ということが分かったとあり、企画した側の意図が伝わりツールの活用も有効だったと評価できる。又、具体的な成功事例を取り上げてほしい等の要望もあったので、次年度計画に反映していきたい。

## 2 勤務環境改善の推進

### 1) WLB 推進のためのアドバイザー派遣

#### (1) 就業環境アドバイザー派遣

内容と方法：WLB 取り組み施設へ WLB 推進支援者及び社会保険労務士をアドバイザーとして派遣し 出前講座・相談・助言を行い支援する。医療勤務環境改善支援センターと 2019 年度の実施計画について事業の連携や役割分担、予算調整などを行いスタートした。

＜WLB 取り組み施設へ就業環境改善アドバイザーを派遣＞

対象：WLB 取り組み施設で本事業に申し込みのあった施設

実績：11 施設へ実施 アドバイザー派遣回数 19 回 (1 施設 1～3 回)

派遣人数：延べ人数 41 人 (WLB 支援者 勤務環境改善支援センター社労士 3 人)

支援方法 (出前講座 指導助言 相談等) 支援項目内容：「WLB の基本的な考え方」「労務管理の

基礎知識」「業務改善」「働き方改革への取り組み」「教育プログラムの構築」「目標管理について」活用施設の評価：「WLB 推進活動の後押しになった」「業務改善に取り組みやすくなった」「働き方改革関連法実施に取り組みやすくなった」等の意見があった。

職員への出前講座や委員会等にアドバイザーが参加する形で、1施設2～3人体制で指導・助言を行い各施設の課題解決に向けて支援した。アドバイザーとして訪問する形式は施設の負担も減り、又、継続した委員会活動ができていない施設への活動の刺激にもなり活性化に繋がったと考える。本事業のシステムは、職場の勤務環境改善の推進や日々の看護管理者の相談機能としてありがたいとの声もあった。今年度は、働き方改革関連法の施行もあったためか「労務管理」「働き方改革への取り組み」についてのニーズが高く社労士による講演会を3施設に調整実施できた。本事業では、医療勤務環境改善支援センター社労士と看護協会支援者が「労務管理」「看護管理」とそれぞれの強みを活かした支援を行っている。労務管理は社労士の専門分野であり、医療勤務改善支援センターとの連携が有効に機能していると評価する。

## 2) ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）の普及啓発

### (1) 講演会：「看護職の働き方改革」の実施

【目的】国の働き方改革関連法を踏まえた日本看護協会の取り組みについて理解し看護職が将来にわたりやりがいを持ち、働き続けられる勤務環境の構築について考える。

開催日時：8月31日（土）13：30～16：30 場所：看護研修センター

講演内容：「看護職の働き方改革」日本看護協会常任理事 熊谷雅美

「医療機関における労務管理」特定社会保険労務士 善平克恵

参加人数：54施設193人 アンケート回収率：89%

アンケートよりの評価：参考になったとの回答が90%あった。「多様性を認めることで働きやすい職場を作っていくことが大切だと実感」「時代とともに変化する働き方、知識を得ることができた」などの意見があった。

### (2) 講演会「ヘルシーワークプレイスとDiNQLデータの活用」開催日10/3 参加者：76人

【目的】看護職が健康で安全に働き続けられる職場環境の実現のためにヘルシーワークプレイスの考え方やDiNQL事業を活用して労働環境改善を図った事例を通しWLB推進に活かす。

開催日時：令和元年10月3日（木）10：00～16：00 場所：看護研修センター

講演内容：

- ① 「ヘルシーワークプレイス DiNQL データ事業」日本看護協会労働政策
- ② 「看護部でDiNQLを活用パートII」小松市民病院看護部長
- ③ 「ノーリフトケア（腰痛対策）」在宅総合センター長

参加人数：37施設76人

アンケート回収率：53%

アンケートよりの評価：参考になったとの回答が73%あった。「ガイドラインを確認し取り組みたい」「具体的な実践的な例を挙げてほしい」などの意見があった。看護職の働き方改革がワークライフバランスから「健康」「安全」の視点が入った「ヘルシーワークプレイス」へシフトしていくことの理解や取り組みは始まったばかりである。「看護職が生涯を通して安心して働き続けられる環境づくり」に向けて、次年度も継続して講演会などを企画し情報発信していきたい。

## ナースセンター事業(県の受託事業)

事業項目	回数	開催場所	実績 ( )は前年度実績
中央ナースセンターとの連携 NCCS(ナースセンターコンピューターシステム)の管理運用	常時	ナースセンター	有効求人:3,244人 (3,391人) 有効求職者:1,742人 (1,816人) 就職件数:256人 (270人)  求職者への求人情報提供(システム・来所)
求人・求職相談	常時	ナースセンター	求人相談:368件 (481件) 求職相談:906件 (1,151件)
ハローワークとの連携	週1回	ナースセンター	ハローワークからの求人情報(毎日)を求職者へ情報提供 オンライン提供利用状況報告・ハローワーク求職情報の提供サービス利用 状況報告書の提出
	1回	ハローワーク那覇	ハローワーク那覇・ナースセンター調整会議 日時:令和2年3月17日(火)14:30~15:30
	週1回 月2回 月1回	ハローワーク 那覇・沖縄	ナースセンター・ハローワーク合同就業(進路)相談実施 那覇:毎週火曜日・35回 89人(37回 100人) 沖縄:第1・3木曜日・21回 78人(19回 50人) ジョブセミナー 那覇:第3火曜日・10回 38人(5回 16人)
看護職員需要施設調査 看護職員退職者調査	1回	ナースセンター	平成29年度調査結果は、ナースセンター事業まとめてに掲載し各施設へ郵送  平成30年度看護職員施設調査・退職者調査 対象:県内の看護職員が勤務する医療・保健・福祉施設1,241施設 調査期間:令和元年7月8日~8月9日 回答:669施設(53.9%)
ナースバンク事業 沖縄県ナースセンター事業 運営会議	1回	看護研修 センター	沖縄県ナースセンター事業運営会議 日時:令和元年11月26日(火)14:00~16:00
福祉人材センターとの連携	常時	ナースセンター	毎月の求人情報を求職者へ提供
広報活動	常時	ナースセンター	無料新聞情報掲載:63回 (就業相談:29回・届出:32回・イベント:8回)
	4回		沖縄県看護協会報ナースセンターだより掲載 第58号(Vol.94) 第59号(Vol.95) 第60号(Vol.96) 第61号(Vol.97)
	1回		ナースセンターリーフレットの配布:2,000部 施設調査対象施設:1,255施設 求職者・看護系大学・看護専門学校・ハローワーク・研修受講生等
	1回		平成30年度沖縄県ナースセンター事業のまとめを送付(2019.9.9) 会員施設他265部
	1回		ナースのはたらくサポートブック「はたさぼ」第4版の送付(2019.7.5) 看護系大学・専門学校:8校各10冊 病院:93施設各2冊
	1回		月刊誌「看護」11月号の「研修・イベント情報欄」へ掲載 ①看護技術トレーニング ②潜在看護師交流会&合同就職説明会
	1回	各学校	施設訪問による説明会の実施 看護専門学校:1校 参加人数83人
看護師再就職支援	1回	看護研修 センター	潜在看護師交流会 日時:令和元年11月14日(木)13:00~14:30 参加人数:23人 看護技術トレーニング 実施回数:41回 参加延べ人数:162人
	1回	看護研修 センター	プラチナナース研修会 日時:令和元年12月10日(火)13:30~16:30 参加人数:56人

	事業項目	回数	開催場所	実績 ( )は前年度実績
ナースバンク事業	看護職の合同就職説明会	1回	看護研修センター	合同就職説明会 日時:令和元年11月14日(木)14:30~17:00 求人参加施設:17施設 求職者参加人数:21人 マッチング:見学13人 面接2人 就業4人
		1回	沖縄コンベンションセンター	琉球新報主催2019年看護師採用合同説明会 日時:2019年4月6日(土)13:00~16:00 相談者:22人 (新卒12・既卒1・復職2・転職6・求人1)
	届出制度推進	常時	看護研修センター	平成31年度登録者:294人 累計:1,125人 届出セット3,000部作成 県内病院92施設送付(6/12) 県内病院他142施設他送付(3/9) 届出推進ポスター作成 142施設へ送付(3/9) 施設訪問:13施設
	ナースセンター事業担当者会議(全国会議)	1回	日本看護協会	2019年度ナースセンター事業担当者会議 日時:2019年5月23日(木)10:00~16:00 参加人数:2人
	九州地区意見交換会	1回	宮崎県看護協会	都道府県ナースセンターとの地区別意見交換会 日時:2019年9月12日(木)10:00~16:00 参加人数:2人
	ナースセンター相談員研修	1回	日本看護協会	2019年度都道府県ナースセンター相談員研修 日時:2019年5月24日(金)10:00~16:00 参加人数:2人
		1回	東京都連合会館	職業紹介責任者講習会 日時:令和2年2月13日(木)9:30~17:00 参加人数:2人
3回		那覇第2地方庁舎 沖縄県産業支援センター	生涯現役社会の実現に向けた地域ワークショップ 日時:令和元年11月25日(月)13:30~16:30 場所:那覇第2地方合同庁舎1号館 参加人数:1人 治療と仕事の両立支援セミナー 日時:令和2年1月29日(水)14:00~16:00 参加人数:2人	
看護の心普及事業	「看護の日・看護週間」看護の日式典	1回	看護研修センター	「看護の日」及び「看護週間」記念式典 看護職員功労者知事表彰式 受賞者:11人 日時:令和元年5月18日(土)9:30~11:30
	看護フェア	1回		第5回看護フェア開催 日時:令和元年5月18日(土)11:40~16:00 ブース内容:白衣体験・赤ちゃん抱っこ・オムツ交換・聴診体験・進路相談
	ふれあい看護体験	1~3回	実施施設	ふれあい看護体験・オープンキャンパス申込み施設へ資料(看護への道他)、グッズを送付 実施期間:5月~8月 実施施設:55施設 参加人数:2731人
	オープンキャンパス		看護系大学 看護学校	
	看護の出前授業	随時	実施施設	看護の出前授業実施 実施校:6校 参加人数:264人 講師:11人(各地区委員等)
	進路相談	常時	ナースセンター	進路相談件数:33件
	しごとミュージアム	1回	沖縄コンベンションセンター	生涯学習フェスタ「しごとミュージアム2019」 日時:令和元年7月17日(水)14:00~19:00 参加人数:述べ685人(進路相談24人) 内容:手洗いチェック・アルコールパッチテスト・白衣体験・妊婦体験 赤ちゃん抱っこ・血圧測定・進路相談 ※南部地区委員と協働

	事業項目	回数	開催場所	実績 ( )は前年度実績
看護の心普及事業	職業体験(キッズビジネスタウンin高校生美ら産フェア)	1回	県立武道館	キッズビジネスタウンin高校生美ら産フェア 日時:令和元年11月16日(土) 参加人数:27人 内容:白衣体験・赤ちゃん抱っこ・聴診体験・ 注射体験・手作りナースキャップ
	はえはる夏まつりキッズパーク	1回	南風原町	第8回はえはる夏まつりキッズパーク 日時:令和元年7月15日(月:海の日) 10:00~17:00 場所:南風原町中央公民館 参加人数:65人 内容:白衣体験・赤ちゃん抱っこ・聴診体験・ 注射体験・手作りナースキャップ
	グッジョブフェア	1回	沖縄コンベンションセンター	グッジョブフェア2019 日時:令和元年7月27日(土)14:10~16:20 参加人数:18人 内容:白衣体験・赤ちゃん抱っこ・聴診体験・注射体験・ 手作りナースキャップ
訪問看護	訪問看護支援等	常時	沖縄コンベンションセンター	【訪問看護支援事業と協働】 琉球新報主催2019年看護師採用合同説明会 訪問看護相談コーナー設置 日時:2019年4月6日(土)13:00~16:00 相談者:14人

## 短時間正規雇用等多様な勤務形態導入支援事業実績 受託事業（県）

1) WLB 推進体制：ワーク・ライフ・バランス推進委員会の設置・開催  
推進体制・支援者等

推進委員	宮城 とも	柴山 順子	神里みどり	平良 孝美
	藤本みゆき	水田 厚子	外間 貴子	照屋いずみ
*1 支援者	知念 寿子	照屋 洋子	金森 智江	與儀とも子
*2 支援者	宮城恵子	翁長多代子	上里さとみ	中村 洋子

\*1 支援者：WLB 取り組み先行施設の副院長、看護部長、研究者、看護行政担当者等

\*2 元委員をアドバイザーとしてリスト作成し派遣

2) WLB 推進委員会の開催：3 回開催（7/13, 9/7, 12/7） 3/7 コロナ拡大防止のため委員会中止（資料送付）

(1) 平成 31 年度事業計画・進捗状況、アドバイザーリスト作成、会議報告等

(2) 講演会、インデックス調査、アドバイザー派遣、リスト作成等

(3) アクションプラン、アドバイザー派遣状況、記録様式の検討等

(4) 講演会について

(5) 事業実績報告・次年度計画について

3) 医療従事者の WLB インデックス調査（施設調査・職員調査）

調査期間：令和元年 7 月 17 日～31 日

参加施設：仲本病院、沖縄セントラル病院

調査数：対象者数 185 人 回収票数 179 人 回収率 97%

4) 就業環境改善アドバイザー派遣事業

「本会支援者と勤務環境改善支援センターの医療労務管理アドバイザーを WLB 取組施設の訪問等」

派遣施設：11 施設（仲本病院、沖縄セントラル病院、沖縄中部療育医療センター、海邦病院

中部徳洲会病院、沖縄南部療育医療センター、名護療育医療センター、

もとぶ野毛病院、小禄病院、屋宜原病院、友愛会豊見城中央病院）

派遣回数：19 回（講演、委員会参加、資料提供、指導・助言等）

派遣延数：41 人（内訳：勤務環境改善支援センター社会保険労務士延 5 人、本会支援者延 36 人）

5) 看護職の WLB ワークショップ参加施設へのフォローアップ

「支援者が施設訪問或いは電話等でフォローアップ」

平成 29 年度参加施設：4 施設（同仁病院、県立北部病院、かんな病院、西崎病院）

フォローアップ数：4 回

※平成31年度アドバイザー派遣・フォローアップ一覧

参加年度	施設名	訪問日	内容
平成 29 年度	1 同仁病院	2月15日	平成29年度WLBワークショップ参加施設3年目フォローアップ 訪問、推進体制、新たな課題、3年後のゴール達成状況、WLB ワークショップ参加後の組織の変化など確認
	2 北部病院	2月5日	
	3 かんな病院	1月22日	
	4 西崎病院	1月31日	
平成 30 年度	5 沖縄中部療育医療 センター	1月22日	WLB取り組み状況の確認、今後の方向性、学会ポスター作成 助言
	6 海邦病院	11月20日	WLB推進委員会に参加、昇任基準、人事考課、働き方改革等 意見交換
	7 中部徳洲会病院	12月17日	WLB推進委員会に参加、助言指導
		3月14日	WLB取り組み状況確認、今後の方向性
	8 沖縄南部療育医療 センター	2月21日	講演「人にやさしい職場環境づくり～働き方改革への取り組 み」
9 名護療育医療 センター	9月20日	夜勤専従者の入院基本料等の施設基準に係る届出（様式9） の考え方相談・助言	

			10月4日	夜勤専従者の勤務時間に関する相談・助言
			1月8日	夜勤専従制度導入後の状況と今後の取り組み
平成 31 年度	10	仲本病院	10月21日	インデックス調査データの見方、意見交換
			11月20日	講演「WLB基本的な考え方、働き方改革」等
			2月20日	取り組み状況の確認、WLB推進について
	11	沖縄セントラル病院	10月15日	インデックス調査データの見方、意見交換
			10月31日	講演「中間管理者が学ぶマネジメントの基礎、労務管理」
			2月7日	WLB取り組み状況の確認及び課題について
	12	もとぶ野毛病院	12月18日	教育プログラム、目標管理について
	13	小禄病院	10月16日	教育プログラム「クリニカルラダー導入」
			1月22日	取り組み状況の確認、WLB推進について相談、助言
	14	屋宜原病院	12月24日	業務改善、看護職の定着に向けた方策について
15	豊見城中央病院	1月29日	講演「労務管理の基礎知識、働き方改革」等	

#### 6) 講演会の開催

##### (1) 第1回講演会「看護職の働き方改革」

日 時：令和元年8月31日（土）13:30～16:30

会 場：沖縄県看護研修センター第一研修室 参加者数：193人

講 師：熊谷雅美 日本看護協会常任理事

##### (2) 第2回講演会「ヘルシーワークプレイスとDiNQLデータの活用」

日 時：令和元年10月3日（木）10:00～16:00

会 場：沖縄県看護研修センター第一研修室 参加者数：76人

講演①「ヘルシーワークプレイスとDiNQLデータ事業」

講 師：小村由香 日本看護協会労働政策部看護労働課課長

講演②「看護部全体でDiNQLを活用パートⅡ」

講 師：太田裕子 国民健康保険小松市民病院看護部長

講演③「ノーリフトケア（腰痛対策）」

講 師：古謝早苗 仁愛会在宅総合センターセンター長

#### 7) 沖縄県勤務環境改善支援センター（県医師会）と看護協会の情報交換会の開催

日 時：令和元年7月11日 10:00～10:30 場所：沖縄県医師会館

参加者：県医師会課長、沖縄県勤務環境改善支援センター担当

看護協会常任理事、WLB推進事業担当

内 容：沖縄県勤務環境改善支援センターの取り組みについて

医療従事者のインデックス調査支援事業及びWLB推進アドバイザー派遣事業について

社会保険労務士の派遣に関する協力体制について

#### 8) 県内の医療機関の看護管理者のWLB実態調査データの整理保管、公表

3部作成（2部図書室保管、1部ナースセンター保管）9月17日HPにて図書室閲覧について掲載

#### 9) カンゴサウルス賞授賞式（WLBワークショップ参加、3年間継続した施設）5月18日看護フェア

授賞施設：宜野湾記念病院、公立久米島病院、名嘉村クリニック

#### 【まとめ】

今年度「医療従事者のWLBインデックス調査」を2施設が実施した。多職種でWLB推進委員会が設置され、組織全体で取り組む状況が見られた。就業環境改善アドバイザー派遣の内容は、働き方改革関連法の施行も重なり「働き方改革」「労務管理」「マネジメント」に関する講演と「教育プログラムの開発」「WLB推進委員会での意見交換」などであった。施設の実施報告書から、アドバイザー派遣を利用して「意見や助言が得られた」「今後のWLB推進を考える機会になった」「WLB推進活動の後押しになった」等の評価であった。沖縄県勤務環境改善支援センターの医療労務管理アドバイザーと本会支援者との同行訪問による「施設のWLB推進委員会」への参加は、多方面からの意見交換ができ効果的であった。働き方改革講演会は、自施設の取り組みの参考になったとの声が多く、今後も働き方改革に関する講演会は開催する必要がある。

項目	日時	対象者	内容及び実績
潜在看護師の再就職支援事業	平成31年4月～令和2年3月末日まで 期間内に1人3か月間（実務研修月1日・看護協会研修3回）	<支援者8名> ・施設：病院6施設 クリニック2施設 ・資格：看護師8名 ・年齢：20代2名 30代3名 40代2名 50代1名 ・経験年数：0年1名 1～5年4名 6～10年以上3名 ・離職期間：1～5年5名 6年以上2名 16年1名 ・支援期間：3か月6名 1か月2名 ・雇用形態：正規採用5名 非正規採用3名 ・勤務時間：8時間7名 5時間1名 ・就業定着率：就業継続6名（75%）	・施設訪問：延べ21回 ・就業相談・就業に向けての施設との調整（事業説明・研修進捗状況確認・研修終了まとめ） ・就業施設に対する研修計画書作成の助言 ・研修受講調整：看護協会一般研修14項目（延べ20人受講） ・研修生からの電話相談・面談実施・研修日誌の確認 ・施設からの提出書類の確認 ・研修終了後の就業状況確認・定着に向けての支援

実務研修（OJT）に関して

- 1) 目標の達成度についてはほぼ全員がまあまあできた（80%以上）と答えている。普通と（60%）答えたものは、時間内での業務の終了や電子カルテへの入力を課題として挙げている。
- 2) 研修内容については全員が大変良い・良いと答えている。3か月間の目標をもとに振り返りを行うことで、課題達成に向けて意欲的に取り組むことができています。また不慣れな環境の中、いつでも相談しやすい状況を作ってもらったことで不安・緊張も少なく仕事をすることができた。と答えている。
- 3) 研修期間についても全員が大変良い・良いと答えている。看護の仕事は多岐にわたり、離職期間の長いものには、仕事の勘を取り戻すにも時間がかかる。業務を自立して行えるようになるには3か月間は必要な期間である。
- 4) 進め方も全員が大変良い・良いと答えている。定期的に振り返りを行うことで、課題の確認やステップアップの時期を検討しながら進めることができた。また日々の診療に結び付けた勉強会を持つことで無理なく看護業務を習得することができた。

看護協会研修（OF-JT）に関して

- 1) 目標についてほとんどができた・まあまあできたと答えている。しかし、1の方が研修に参加できなかったとの理由であまりできなかったと評価している。潜在支援の開始時期によっては受講できる研修が限られてくる。今年度は潜在看護師の再就職支援セミナーを企画したが、本人の体調不良や家庭の都合等で参加できなかったと答えている
- 2) 内容については、全員の方が実務に活かすことができる内容で大変良い・良いと答えている。特に「急変時の対応」に関するセミナーは評価もよく、より実践に即した研修の開催がこれからの課題である。
- 3) 期間・進め方についても全員が大変良い・良いと答えている。3か月間では職場環境にも慣れ、指導者やチームメンバーへ相談もできるようになった。また潜在支援担当者が定期的に訪問に来てくれることで励みになった。振り返りの時間を取ることで気づくことも多かったと評価している。

項目	講師	日時	対象及び参加者	内容
支援セミナー	急変時の対応に必要な基礎知識 南部医療センター・こども医療センター 救急看護認定看護師 吉田 享弘 琉球大学医学部附属病院 救急看護認定看護師 又吉 努	①令和元年 9月19日 (木) 10:00～ 15:00 ②令和2年 1月16日 (木) 10:00～ 15:00	・eナース登録者で未就業の看護職 ・技術トレーニング受講者で就業まもない看護職 受講人数：36名 (看護師31名 准看護師5名) 年代：20代4名 30代6名 40代14名 50代8名 60代4名 就業状況：未就業31名 就業中5名	・急変の予測 (急変させない為の観察ポイント) ・急変時の評価と報告 (SBAR) ・一次救命処置(BLS) ※講義・演習
	感染対策の基礎知識 中頭病院 感染管理認定看護師 浜本沙織	令和元年 9月11日 (水) 13:30～ 14:00	・eナース登録者で未就業の看護職 ・技術トレーニング受講者で就業まもない看護職 受講人数：3名(看護師3名) 年齢：30代1名 40代1名 50代1名 就業状況：未就業3名	・標準予防策とは ・手指衛生・標準予防策の必要性 ・手指衛生の方法と実際 ・注射実施時の感染対策 ※講義・演習

<参加者の意見・評価>

「救急時の対応に必要な基礎知識」研修

- アンケート結果より、参加者は「非常に良かった」が20名、「良かった」が1名、「普通」「あまり良くなかった」「良くなかった」と回答した者はいなかった。
- 「実際に人形を使って心肺蘇生を学ぶことができて良かった。」「SBARについて知識がなかったので学べて良かった。これからも学んでいきたい。」「実践的で現場のイメージがついた。現役の先生のご指導が分かりやすくありがたく思いました。」等、今後の就業意欲につながるような意見がきかれた。
- ハローワークの就業活動実績としての認定を受け、求職活動中の方が参加しやすいようにした。次回以降も同様に継続していく。

「感染対策の基礎知識」研修

- 「手指衛生の必要性や標準予防策について学ぶことができた。」「手洗い方法を意識して実施しないと患者さんも自身も感染から守ることはできないなと思った。」といった意見がきかれた。
- 今回は定例の技術トレーニングの項目のひとつとして実施したため、参加者は少なかったが、研修の内容や受講者の反応もよかったため、今後、対象者、時間を拡大して継続していく。

項目	時期	受講者及び背景	内容及び実績
支援セミナー 看護技術トレーニング	毎週水曜日 13:30～16:30 平成31年4月～令和2年2月  <第1・3週> ・喀痰吸引 ・経管栄養 ・AED  <第2・4週> ・静脈内採血 ・点滴静脈内注射 ・皮下注射 ・筋肉注射	<b>受講時</b> ・就業状況：未就業66名 就業中8名 ・離職期間：なし8名 1年未満21名 1～3年未満14名 3～5年未満7名 5～10年未満7名 10年以上17名 ・年代別：20代8名 30代21名 40代28名 50代13名 60代4名 ・保有資格（再掲）：看護師60名 准看護師14名 保健師2名(再) 助産師9名(再) <b>受講後</b> ・就業状況：就業49名 未就業25名 ・就業施設：病院18名・クリニック 16名・デイサービス4名・児童デ イ4名・老健2名・訪問看護2 名・その他3名 ・雇用形態：正規18名 非正規31名	・受講者数：延べ162名 (実数74名) ・実施回数：41回 ・看護技術DVD視聴 ・シミュレーターでの演習 ・技術チェックリストでの 技術の自己評価と振り返り ・受講者への技術の確認・ 指導・助言 ・演習前後の準備・片づけ ・必要物品の補充・管理 ・チェックリスト等の集 計・まとめ
	<p>&lt;まとめ・評価&gt;</p> <p>1) 受講者が技術トレーニングを知るきっかけは、当協会ホームページが43%、ハローワークが32%、新聞・広告等が10%となっていた。</p> <p>2) 受講者の就業状況は、未就業者が66名(89.2%)、就業中の者が19名(21%)だった。受講時就業中の者の受講動機は、就業間もないことでの技術不安や役所・保育所・デイサービスなどから臨床現場への転職を理由に挙げている。</p> <p>3) 受講者の離職期間は、1年未満が21名(28.4%)と多く、次いで10年以上の者が17名(23%)年代別にみると、30代～40代が49名で全体の66%を占め、ついで50代の13名となっている。その退職理由は、結婚、出産、親の介護、引っ越しなどの家庭の事情や自身の体調不良等であった。</p> <p>4) 受講者74名中49名(66.2%)が就業した。いまだ未就業のものが25名、未就業の理由として、「体調不良」「家庭の事情」「勤務条件があわない」等が挙げられた。</p> <p>5) 就業施設別でみると、病院が18名(37%)、クリニックが16名(33%)と臨床現場への就業が7割を占めた。雇用形態としては、正規雇用は18名(37%)と少なく、パートや非正規雇用が31名(63%)と大半を占めた。</p> <p>6) 受講後「できるという認識でいた項目があやふやだったり、手技が不十分であったりしたので「確認できてよかった。」「はじめは不安しかなかったが、経験することで少しずつ感覚が戻ってきているような気がしました。」「働きたい気持ちが大きくなってきました。」と評価している。</p>		
項目	内容及び実績		
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護協会会報・ホームページへの掲載</li> <li>・新聞等掲載：48回</li> <li>・看護協会会員へポスター・研修案内の郵送：506人</li> <li>・看護協会会員施設・ハローワーク・市町村役所等関連施設へポスター・チラシ郵送：473施設</li> <li>・医療・福祉系求人・求職情報誌掲載：4回</li> </ul>		

特定町村ごとの支援内容

事業名	町村名	採用年数または人数	申し出内容 (調整結果)	支援実績	回数/年
2- (1)	人材バンク 事業	伊平屋村	住民健診結果説明	6月30日-7月6日2人 実施済	1
		伊江村	特定保健指導 (①初回面接・②評価面接)	①12月 2- 6日1人 実施済 ② 3月23-27日1人 実施済	2
		久米島町	育休の補充	予算確保ができずなし	
		北大東村	住民健診結果説明	11月28-30日1人 実施済	1
		粟国村	①乳幼児健診 ②結果説明会	① 5月27-29日1人 実施未(台風) ②11月 1-2 日1人 実施済	2
		座間味村	①乳幼児健診 ②予防接種	①6月21日1人 実施済 ②3月19日1人 実施済	2
		多良間村	住民健診	11月19-21日1人 実施済	1
2- (2)	特定町村保 健師現任教 育支援事業	国頭村	採用3年目 個別支援の基準作成、管理中 止の基準、同伴訪問、事例の 振り返り	個別支援から地区把握、ア セスメント、支援計画作成、 事例検討、同行訪問	12
		大宜味村	採用3年目 個別支援の選定、管理中 止等、同伴訪問、事例の 振り返り	個別支援から地区把握、ア セスメント、支援計画作成	12
		伊是名村	採用3年目 個別支援の基準作成、個別 支援について	個別支援台帳作成、事業の 要綱作成、個別支援から地 区把握、アセスメント、 支援計画作成	10
		北大東村	採用1年目 乳幼児健診・個別支援	乳幼児健診、個別支援(情 報の整理・アセスメント、 記録管理)、住民健診結 果説明会	9
		粟国村	採用1年目 乳幼児健診・住民健診・結 果説明会、各種要綱作成、 同行訪問	乳幼児健診(問診・事後 フォロー)、実施要綱作成、 健康教育、同行訪問	6
		座間味村	採用1年目 2人 (R1.4月及び R1.11月採用)	個別支援台帳・各種記録・ 乳幼児健診・住民健診・ 結果説明等	事業の要綱作成、各種 記録、乳幼児健診 フォロー台帳作成、 事例検討
2- (3)	地域保健活 動支援事業	国頭村	保健師3名 事例検討・デイケア他	デイケア(精神)実施、 事例検討	12
		大宜味村	保健師3名 事例検討・同行訪問他	事例検討、巡回相談(療 育)の検討	12
		伊平屋村	保健師2名 精神の個別支援の強化と 事業化	事例検討、家族面談、 精神障がい者の居場所 づくり	6
		伊是名村	保健師2名 事例検討・同行訪問他	実施要綱作り	10
		粟国村	保健師2名 乳幼児健診・特定保健指 導	※10月より実施 乳健の事前準備、台帳 作成、事業評価	3
		座間味村	保健師2名 乳幼児健診・住民健診・ 結果説明会	乳幼児健診、住民健診、 地域ケア会議、個別支 援の優先順位、検討等	14

【評価・課題】

・前年度と比較して全体的にCDNの支援回数が増え、これまで以上に保健所・看護協会でも重層的に支援することができ、村保健師から報告や相談等が増え、関係性の構築につながった。

・北部保健所管内では、村保健師がコーディネータをどう活用するか理解してきたこともあり、支援内容を充実させ発展させることができた。また、3村の共通課題となっていた個別支援の課題(対象者の選定、アセスメント・目標設定・支援終了または継続までの一連の流れ)を保健所とコーディネーターで共有することができた。さらに保健所の集合研修とコーディネーターのOJTの目標を共通させて支援したことで、次年度の個別支援計画作成に役立てることができた。今後は、個別支援から地域の特性をふまえた事業化ができるようになることを期待したい。

・南部保健所管内では、採用1年目の保健師が多く、離島保健師としての活動に慣れるまでに時間がかかり、支援がなかなか意図するところに行かなかったが、年間を通して支援することで村の課題が把握でき、次年度に向けてより具体的に方向性を村・保健所・看護協会の三者で確認することができた。